

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

6

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 08193146 A

(43) Date of publication of application: 30.07.96

(51) Int. Cl

C08L 7/00

C08L 9/00

//(C08L 7/00 , C08L 53:02), (C08L 9/00 , C08L 53:02)

(21) Application number: 07006565

(71) Applicant: YOKOHAMA RUBBER CO LTD:THE

(22) Date of filing: 19.01.95

(72) Inventor: KAWAMO TETSUJI

(54) RUBBER COMPOSITION

(57) Abstract:

PURPOSE: To prepare a rubber compsn. which can enhance abrasion resistance while maintaining properties such as viscoelasticity.

CONSTITUTION: This rubber compsn. comprises: a blend of (i) NR and/or IR, (ii) SBR having a styrene content (St) of not more than 50wt.%, a 1,2-vinyl bond content (Vn) in the butadiene portion of not more than 80mol% and satisfying the relationship $Vn22St+30$, and (iii) an A-B type block copolymer comprising an SBR

block (A) having a styrene content (St) of 0 to 50wt.%, a butadiene content (Bd) of 50 to 100wt.%, a 1,2-vinyl bond content (Vn) in the butadiene portion of 5 to 70% and satisfying the relationship $Vn22St+30$, or a BR block (A) and an IR block (B) having a cis content of not less than 70wt.%, the block (A) to block (B) weight ratio being (20 to 80):(80 to 20), the content of the A-B type block copolymer being 2 to 20 pts.wt. based on 100 pts.wt. of the total amount of the components (i), (ii) and (iii).

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-193146

(43)公開日 平成8年(1996)7月30日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
C 08 L 7/00	L B D			
9/00	L B F			
// (C 08 L 7/00				
53: 02)				
(C 08 L 9/00				

審査請求 未請求 請求項の数 2 OL (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平7-6565	(71) 出願人	000006714 横浜ゴム株式会社 東京都港区新橋5丁目36番11号
(22) 出願日	平成7年(1995)1月19日	(72) 発明者	川面 哲司 神奈川県平塚市追分2番1号 横浜ゴム株式会社平塚製造所内
		(74) 代理人	弁理士 石田 敬 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ゴム組成物

(57) 【要約】

【目的】 粘弹性特性などの特性を保持しながら、耐摩耗性を高めることができるゴム組成物を開発する。

【構成】 (i) N R 及び／又は I R、(ii) スチレン含量 (S t) が50重量%以下、ブタジエン部分の 1, 2 ビニル含量 (V n) が80モル%以下かつ $V_n \leq 2S_t + 30$ の関係を満足する S B R 並びに(iii) スチレン含量 (S t) 0~50重量%及びブタジエン含量 (B d) 50~100 重量%でブタジエン部分の 1, 2-ビニル結合含量 (V n) が5~70モル%かつ $V_n \leq 2S_t + 30$ の関係を満足する S B R ブロック (A) 又は B R ブロック (A) と、シス含量が70重量%以上の I R ブロック (B) とからなり、重量比で (A) / (B) が20~80/80~20の A-B 型ブロック共重合体を配合して成り、A-B 型ブロック共重合体の含量が成分 (i), (ii) 及び (iii) の合計量100重量部当たり2~20重量部であるゴム組成物。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (i) 天然ゴム及び/又はポリイソブレンゴム、(ii) スチレン含量(S_t)が50重量%以下、ブタジエン部分の1,2ビニル含量(V_n)が80モル%以下かつV_n≤2S_t+30の関係を満足するスチレン-ブタジエン共重合体ゴム(SBR)並びに(iii) スチレン含量(S_t)0~50重量%及びブタジエン含量(B_d)50~100重量%でブタジエン部分の1,2-ビニル結合含量(V_n)が5~70モル%でかつV_n≤2S_t+30の関係を満足するポリ(スチレン-ブタジエン)ブロック(A)又はポリブタジエンブロック(A)と、シス含量が70重量%以上のポリイソブレンブロック(B)とからなり、重量比で(A)/(B)が20~80/80~20のA-B型ブロック共重合体を配合して成り、A-B型ブロック共重合体の含量が成分(i), (ii)及び(iii)の合計量100重量部当り2~20重量部であるゴム組成物。

【請求項2】 A-B型ブロック共重合体の分子量が30,000以上である請求項1記載のゴム組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はゴム組成物に関し、更に詳しくは天然ゴム(NR)及び/又はポリイソブレンゴム(IR)と、スチレン-ブタジエン共重合体ゴム(SBR)とから成るゴム配合物にブタジエン又はブタジエン及びスチレンと、イソブレンとから成るA-B型ブロック共重合体を配合して成る、粘弾性特性などのNR(IR)/SBR系の特性を低下させることなく、耐摩耗性を向上させることができる、例えばタイヤ用キャップトレッドなどに用いるのに有用なゴム組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、自動車などのタイヤ用ゴム組成物に対しては、各種性能の改善が求められており、そのためタイヤトレッド用ゴムその他において、複数のポリマーをブレンドして使用することが行われているが、これらのポリマー同士が非相溶である場合、相分離界面が存在する。多くの場合、この界面が破壊の起点となり引張強さ、引裂強さ、耐摩耗性などに悪影響をあたえると考えられる。しかしながら、従来、タイヤを始めとしたゴム製品におけるゴム/ゴムブレンドの相分離界面の問題は充分検討されておらず、この問題の解決方法も見いだされていなかった。

【0003】 従来、ブロックポリマーを配合してポリマー-ブレンドの非相溶性に基づく破壊強度の低下を実用的に解決せんとする試みは認められず、天然ゴム(NR)/ポリブタジエンゴム(BR)のブレンド系に、ポリブタジエン(BR)とポリイソブレン(IR)とのブロック共重合体を少量配合することが、J. Appl. Polym. Sci., 49 (1993) 及びRCT. 6

6 (1993) に記載されているに過ぎない。しかしながら、これらの文献には、NR/BRブレンド系にポリブタジエンブロックを持ったブロックポリマーが検討されているだけで、工業的に重要なNR/SBRブレンド系については記載されていない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 低燃費性能及びグリップ性能と耐摩耗性を両立する手段として天然ゴムと溶液重合SBRをブレンドして使用することが一般的に行われているが、これらを更なる高い次元で両立させることは困難であった。しかしながら、耐摩耗性の更なる向上によりトレッドゲージを薄くでき、延いては軽量化につながることから昨今耐摩耗性向上要求が高まってきている。従って、本発明は従来技術の問題点を排除して、粘弾性特性などのNR(IR)/SBR配合系の他の特性を損なうことなく、耐摩耗性を高めることができるゴム組成物を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明に従えば、(i) 天然ゴム及び/又はポリイソブレンゴム、(ii) スチレン含量(S_t)が50重量%以下、ブタジエン部分の1,2ビニル含量(V_n)が80モル%以下かつV_n≤2S_t+30の関係を満足するスチレン-ブタジエン共重合体ゴム(SBR)並びに(iii) スチレン含量(S_t)0~50重量%及びブタジエン含量(B_d)50~100重量%でブタジエン部分の1,2-ビニル結合含量(V_n)が5~70モル%でかつV_n≤2S_t+30の関係を満足するポリ(スチレン-ブタジエン)ブロック(A)又はポリブタジエンブロック(A)と、シス含量が70重量%以上のポリイソブレンブロック(B)とからなり、重量比で(A)/(B)が20~80/80~20のA-B型ブロック共重合体を配合して成り、A-B型ブロック共重合体の含量が成分(i), (ii)及び(iii)の合計量100重量部当り2~20重量部であるゴム組成物が提供される。

【0006】

【作用】 本発明によれば、(i) NR及び/又はIR並びに(ii) 特定のSBRのブレンド系に(iii) 特定のブロック共重合体(A-B)を配合することによって、グリップ性能、低燃費性能などの粘弾性特性を低下させることなく、耐摩耗性を向上させることができる。

【0007】 本発明に係るゴム組成物に配合されるNR、IR及びSBRは従来から各種ゴム用途にゴム成分として一般に使用されている任意のポリマーとすることができます、NR/IRのブレンド比並びに(i) NR及び/又はIR/(ii) SBR又はBRのブレンド比はゴム組成物の用途に従って選定することができる。かかる選定は当業者であれば適宜なし得るところであるが好ましくはNR/IR比は100/0~50/50とすることでき、(i) NR及び/又はIR/(ii) SBR又は

B R 比は好ましくは 80~20/20~80 (重量部)、更に好ましくは 75~25/25~75 (重量部) である。なお、本発明で用いる S B R 又は B R は一般的な溶液重合法 (又は乳化重合法) で得られるもので、スチレン含量 (S t) が 50 重量% 以下、好ましくは 45 重量% 以下で、ブタジエン部分の 1, 2 ビニル含量 (V n) が 80 モル% 以下、好ましくは 5~80 モル% でかつ $V_n \leq 2S_t + 30$ の関係を満足するものである。

【0008】次に本発明によれば、上記ブレンド系に、特定の A-B 型ブロック共重合体を配合することによって前記本発明の目的を達成することができ、この A-B 型ブロック共重合体の配合量が少な過ぎると、所望の改良効果が得られず、逆に多過ぎると本来のゴム物性であるグリップ性能、低燃費性能などの粘弾性特性のバランスが失われるので好ましくない。かかる観点から本発明で用いる A-B 型ブロック共重合体は全ポリマー成分 (A-B 型ブロック共重合体も含む) 100 重量部に対して、A-B 型ブロック共重合体を 2~20 重量部、好ましくは 5~18 重量部配合する。

【0009】本発明で用いる A-B 型ブロック共重合体はスチレン (S t) 及びブタジエン (B d) 共重合体又はブタジエン (B d) 重合体と、イソプレンから成り、ブロック成分 A 及び B のスチレン含量 (S t) 及び 1, 2-ビニル結合 (V n) 並びに A 成分及び B 成分の重量比率 (A) / (B) は下記の通りである。

【0010】ブロック A

(a) スチレン含量 50 重量% 以下、好ましくは 1~45 重量%、更に好ましくは 5~45 重量% (残部はブタジエン含量) で、ブタジエン部の 1, 2-ビニル結合含量 (V n) : 5~70 モル%、好ましくは 10~70 モル% でかつ $V_n \leq 2S_t + 30$ (S t : スチレン含量) のポリ (スチレン-ブタジエン) 又は (b) 1, 2-ビニル結合含量が 5~30 モル%、好ましくは 10~30 モル% ポリブタジエン

【0011】ブロック B

シス含量が 70 重量% 以上、好ましくは 75 重量% 以上のポリイソプレン

【0012】(A) / (B) = 20~80/80~20 (重量部)、好ましくは 30~70/70~30 (重量部)

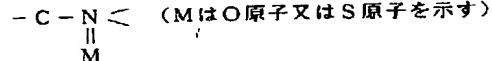
【0013】ブロック成分 (A) (a) のスチレン含量が多過ぎると高シス B R と非相溶になるため目的の効果が得られなくなるので好ましくなく、1, 2-ビニル結合含量が前記範囲外では高シス B R との相溶性が不良になるので所望の効果が得られないで好ましくない。A-B 型ブロック共重合体の配合量が 2 重量部未満では相溶化剤としての作用が十分でなく、耐摩耗性などの物性が改良されず、逆に 20 重量部を超えるとブロック共重合体自身の粘弾性特性が現れてくるので他の物性に影響

が出るので好ましくない。更に (A) / (B) 比が前記範囲外ではマトリックスゴム (N R, S B R) との絡み合いが少なくなる、又は共架橋性が不充分となるため、所望の効果が得られなくなる。

【0014】本発明において使用する A-B 型ブロック共重合体は公知のポリマーであり、一般的にはブチルリチウムなどの有機アルカリ金属化合物触媒を用いてヘキサンなどの有機溶媒中で、例えばスチレン及びブタジエンと又はブタジエンを重合させてブロック (A) を製造し、末端リビング状態のこのブロックに更にイソプレンを添加してブロック (B) を製造するもので、この際に所望によりモノマー配合量比、ビニル化剤の添加、重合条件などを適宜選定して目的のブロック共重合体を得ることができる。さらに、この A-B 型ブロックポリマー同志を例えば四塩化スズ、四塩化ケイ素などでカップリングさせても良い。また、別法として、これも常法に従って、ブロック A とブロック B とをそれぞれ調製し、これを例えば四塩化スズ、四塩化ケイ素などのカップリング剤を用いてカップリングさせることによって製造することもできる。なお、かかる A-B 型ブロック共重合体は例えば環状アミン、

【0015】

【化1】



【0016】結合を有する化合物、例えばアミド化合物、イミド化合物、ラクタム化合物、尿素化合物などの変性剤で末端変性されていてもよく、かかる末端変性ブロックは A-B 型ブロック共重合体の共重合完了後、リビング状態で適当な変性剤を添加することによって製造することができる。

【0017】本発明において配合する A-B 型ブロック共重合体の分子量には特に限定はないがマトリックスゴム (N R (I R), S B R (B R)) との絡み合い、又は共架橋性を考慮すれば、重量平均分子量 30,000 以上であるのが好ましく、50,000~800,000 が更に好ましい。

【0018】本発明のゴム組成物には、必要に応じ、ゴム成分 100 重量部に対し、カーボンブラック 10~100 重量部、好ましくは 20~90 重量部及び/又はシリカ 10~100 重量部、好ましくは 20~90 重量部を配合することができる。カーボンブラック及びシリカとも従来ゴム組成物に一般的に配合されている任意のものを用いることができる。

【0019】本発明のゴム組成物には前記ポリマー及び必要に応じてカーボンブラックや珪酸塩系填料に加えて、硫黄、加硫促進剤、老化防止剤、充填剤、軟化剤、可塑剤などの自動車タイヤ用その他のゴム組成物に一般に配合されている各種添加剤を配合することができ、か

かる配合物は一般的な方法で加硫することができる。これらの添加剤の配合量も一般的な量とすることができる。例えば、硫黄の配合量は100重量部当り1.2重量部以上、更に好ましくは1.5~3.0重量部とするのが好ましい。加硫条件も一般的な範囲である。

【0020】

【実施例】以下、実施例によって本発明を更に説明するが、本発明の範囲をこれらの実施例に限定するものでないことは言うまでもない。なお、以下の例における物性測定は下記方法で行った。

【0021】粘弾性特性：東洋精機製作所製粘弾性スペクトロメータを用い、静的歪み=10%、動的歪み=±2%、周波数=20Hzで測定した（試料幅5mm, 0°C, 60°C）

【0022】耐摩耗性試験：ランボーン摩耗試験機を用

い、スリップ率25%、荷重5kgの条件で測定した。結果は比較例3（表I）及び比較例12（表II）の標準例のゴムを100とした指数（耐摩耗性指数）で示し、数字の大きいものが耐摩耗性が優れている。

【0023】実施例1~10及び比較例1~9

表Iに示す配合（重量部）の各成分を配合し、加硫促進剤と硫黄を除く原料ゴム及び配合剤を1.7リットルのバンパリミキサーで5分間混合した後、この混合物に加硫促進剤と硫黄とを8インチの試験用練りロール機で4分間混練し、ゴム組成物を得た。これらのゴム組成物を160°Cで20分間プレス加硫して、目的とする試験片を調製し、各種試験を行い、その物性を測定した。得られた加硫物の物性は表Iに示す通りであった。

【0024】

【表1】

表1

	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8	実施例9	実施例10
天然ゴム ¹	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
SBR ²	46.7	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
ブロックポリマー ^{1~3}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{2~4}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{3~5}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{4~6}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{5~7}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{6~8}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{7~9}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ^{8~10}	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ¹¹	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸 ¹²	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤 ¹³	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計 (PR)	158	158	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弹性										
$\tan \delta$										
0°C	0.318	0.320	0.324	0.322	0.323	0.324	0.323	0.318	0.317	0.317
60°C	0.165	0.166	0.164	0.165	0.163	0.166	0.165	0.165	0.162	0.162
耐摩耗性指数	107	109	109	112	107	108	106	107	106	107

*1 TTR-20
 *2 NS114; Si=25重量%、Vn=35モル% (日本ゼオン株式会社製)
 *3 ジースト(Seast)NH (東海カーボン株式会社製)
 *4~*11 ブロックポリマー (表III参照)
 *12 サントフレックス(Santoflex)13 (Monsantotech製)
 *13 サントキュア(Santocure)NS (Monsantotech製)

【0025】

【表2】

表I (続き)

	比較例1	比較例2	比較例3 ¹⁴	比較例4 ¹⁴	比較例5	比較例6	比較例7	比較例8	比較例9
天然ゴム ¹	100	70	50	30	—	46.5	42.5	42.5	42.5
SBR ¹²	—	30	50	—	100	—	—	—	—
アロックポリマー-1 ³	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-2 ⁴	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-3 ⁵	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-4 ⁶	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-5 ⁷	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-6 ⁸	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-7 ⁹	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アロックポリマー-8 ¹⁰	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ¹¹	50	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸 ¹²	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ¹²	1	1	2	2	2	2	2	2	2
硫黄	2	2	1	1	1	1	1	1	1
加硫促進剤 ¹³	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計 (PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弹性									
$\tan \delta$									
0°C	0.279	0.306	0.322	0.331	0.337	0.324	0.323	0.322	0.320
60°C	0.171	0.169	0.165	0.161	0.143	0.166	0.166	0.167	0.166
耐摩耗性指数	110	103	100	98	97	98	97	100	101

* 1 TTR-20
 * 2 NS114, Si=25重量%, Vn=35モル% (日本ゼオン株式会社製)
 * 3 ジースト(Seast)KH (東海カーボン株式会社製)
 * 4 ~ * 11 プロックポリマー (表III参照)
 * 12 サントフレックス (Santoflex) (Monsanto社製)
 * 13 サントキュア (Santocure) NS (Monsanto社製)
 * 14 標準例

【0026】実施例11~18及び比較例10~18
 実施例1~10及び比較例1~9において、SBRの種類を代えた以外は同様にして実験を繰り返した。用いた

配合及び得られた結果を表IIに示す。

【0027】
 【表3】

表II

	実施例11	実施例12	実施例13	実施例14	実施例15	実施例16	実施例17	実施例18
天然ゴム ^{*1}	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
SBR ^{*2}	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5	46.5	42.5
ブロックポリマー1 ^{*3}	7	15	—	15	—	—	—	—
ブロックポリマー2 ^{*4}	—	—	7	—	—	15	—	—
ブロックポリマー3 ^{*5}	—	—	—	—	7	—	7	—
ブロックポリマー4 ^{*6}	—	—	—	—	—	—	—	15
ブロックポリマー5 ^{*7}	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー6 ^{*8}	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー7 ^{*9}	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー8 ^{*10}	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンブラック ^{*11}	50	50	50	50	50	50	50	50
亜鉛華	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ^{*12}	1	1	1	1	1	1	2	2
硫黄	2	2	2	2	2	2	1	1
加硫促進剤 ^{*13}	1	1	1	1	1	1	158	158
合計 (PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弹性 $\tan \delta$								
0°C	0.509	0.510	0.507	0.508	0.509	0.512	0.509	0.510
60°C	0.160	0.161	0.158	0.158	0.156	0.158	0.158	0.159
耐摩耗性指数	107	108	107	110	109	111	107	107

* 1 TTR-20

* 2 NS116: St=20重量%, Vn=65モル% (日本ゼオン株式会社製)

* 3 シースト(Seast)KH (東海カーボン株式会社製)

* 4 ~ * 11 ブロックポリマー (表III参照)

* 12 サントフレックス(Santoflex)13 (Monsanto社製)

* 13 サントキュア(Santocure)NS (Monsanto社製)

【0028】

【表4】

表II(続き)

	比較例10	比較例11	比較例12	比較例13	比較例14	比較例15	比較例16	比較例17	比較例18
天然ゴム ¹⁾	100	75	50	25	—	46.5	42.5	42.5	42.5
SBR ²⁾	—	25	—	75	100	46.5	42.5	42.5	42.5
ブロックポリマー ³⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ⁴⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ⁵⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ⁶⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ⁷⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブロックポリマー ⁸⁾	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カーボンプラック ⁹⁾	50	50	50	50	50	50	50	50	50
垂鉛 ¹⁰⁾	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ステアリン酸 ¹¹⁾	1	1	1	1	1	1	1	1	1
老化防止剤 ¹²⁾	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄促進剤 ¹³⁾	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫合計(PHR)	158	158	158	158	158	158	158	158	158
伸張型粘弹性 tan δ									
0°C	0.271	0.384	0.507	0.661	0.989	0.508	0.510	0.502	0.506
60°C	0.156	0.161	0.158	0.158	0.158	0.160	0.160	0.157	0.158
耐摩耗性指数	118	102	100	96	94	97	98	101	100

* 1 TIR-20
* 2 NS116: Si=20重量%, Vn=65モル% (日本ゼオン株式会社製)
* 3 シースト(Seast)RH (東海カーボン株式会社製)

* 4 ~ * 11 ブロックポリマー (表III参照)

* 12 サントフレックス(Santoflex)13 (Monsanto社製)
* 13 サントキュア(Santocure)NS (Monsanto社製)

* 14 標準例

表III

		ブロックA		ブロックB	A/B 重量比	重量平均 分子量 (万)	カップリング 有無
		S _t 量 (重量%)	V _n 量 (モル%)	c _i s量 (重量%)			
ブロックポリマー1 ^{**}	実施例	23	35	82	50/50	35	無し
ブロックポリマー2 ^{**}	実施例	23	35	82	50/50	81	Sn
ブロックポリマー3 ^{**}	実施例	35	50	85	50/50	43	無し
ブロックポリマー4 ^{**}	実施例	28	57	85	50/50	42	無し
ブロックポリマー5 ^{**}	比較例	23	35	52	50/50	40	無し
ブロックポリマー6 ^{**}	比較例	12	62	84	50/50	44	無し
ブロックポリマー7 ^{**}	比較例	0	55	86	50/50	40	無し
ブロックポリマー8 ^{**}	実施例	0	18	84	50/50	41	無し

【0030】

【発明の効果】以上、説明したように、本発明に従えば、粘弾性特性を損なうことなく、耐摩耗性（表I及び

IIの耐摩耗性指数が大きいほど良好）に優れたゴム組成物を得ることができる。

フロントページの続き

(51) Int.CI.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

C 0 8 L 53:02)